

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡県文化財団	
施 設 名	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	6,010	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	6,010 (千円)

1. 事業概要

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	グランシップこどもアート体験！学校プログラム	6月～12月	内容：音楽から伝統芸能まで幅広いジャンルによる県内学校でのアウトリーチ 講師：ALBOS トリオ、人形浄瑠璃文楽座 他	目標値	①～④参加者計： 1,300
		県内小中学校 他		実績値	1,489
2	グランシップ伝統芸能普及プログラム	7月～12月	内容：文楽、講談、浪曲レクチャー 他 講師：人形浄瑠璃 文楽座 他 県内大学と連携したレクチャー、小学校での狂言ワークショップ	目標値	①～③参加者計： 420
		グランシップ中ホール 他		実績値	120
3	グランシップ静岡能楽入門公演	(稽古) 6/21～ (本番) 9/10	(稽古) 9/10 本番に向けた小学生～大学生が能楽の稽古 (本番) 能「野守」、仕舞「邯鄲」 出演：山階彌右衛門、武田崇史他	目標値	入場者 650
		グランシップ中ホール		実績値	658
4	グランシップ伝統芸能シリーズ講演会	11/22	内容：「東アジア文化都市 2023」に関連し、能楽を通じたアジアから日本へ芸能のつながりを紹介。 講師：宝生和英	目標値	参加者 200
		静岡県立大学		実績値	190
5	「東京都交響楽団 名曲コンサート」事前レクチャー	10/29	内容：本公演で演奏される曲目への理解を深めるためのレクチャー 講師：平野昭	目標値	入場者 100
		グランシップ映像ホール		実績値	34
6	グランシップ 中高生のためのオーケストラ	11/17	曲目：ニルンベルクのマイスタージンガー 他 管弦楽：東京都交響楽団 指揮：小泉和裕	目標値	入場者 1,880
		グランシップ中ホール		実績値	1,042
7	【グランシップ出前公演】フィンランド発 驚異のハーモニカ・カルテット スヴェング	1/27	内容：小学校でのミニコンサートと公演 曲目：フィンランディア、ハリーポッターと賢者の石 他 出演：スヴェング	目標値	入場者 300
		アミューズ豊田 他		実績値	664

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>	
<p>【ミッション（社会的役割）】</p> <p>県立劇場であるグランシップでは、「鑑賞機会の提供」「社会包摂・国際文化交流」「地方の県立劇場としての存在意義」をミッションとし、鑑賞者の育成や子どもたちへの文化芸術活動の機会の提供、誰もが文化芸術に触れられる環境づくりを行い、生活に潤いと誇りを感じることができる心豊かな生活の実現に向けて、普及啓発事業に取り組む。</p>	
<p>【ビジョン】</p> <p>地域、世代、障害の有無に関わりなく、音楽・伝統芸能をはじめとして、誰もが上質で多彩な文化芸術体験ができるよう、4つの【戦略目的】と3つの【体験（事業形態）】による重層的な構成で推進する。</p>	
<p>【事業の組み立て】</p> <p>【戦略目的】</p> <ol style="list-style-type: none">① 子ども・子育て世代への支援② 音楽文化等の普及・振興③ 伝統芸能の継承④ 文芸（ことば）・美術等の振興	<p>【体験（事業形態）】</p> <ol style="list-style-type: none">i 上質で多彩な鑑賞事業ii 関心・理解・親しみを深める教育普及iii 誰もが主人公となる県民参加
<p>各事業においては、戦略目的と事業形態を関連付けて計画。新型コロナウイルスの影響を受けずに、すべての事業が当初の事業計画の通りに実施することができた。</p>	
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>	
<p>新型コロナウイルスの影響により、文化芸術に触れる機会が減少していた数年間を取り戻すべく、子どもや学生をはじめ、県民が多彩な文化芸術に触れる機会を創出した。いずれも、文化的、社会的、経済的意義のある事業として取り組んだ。</p> <p>【文化的意義】「東京都交響楽団名曲コンサート」（助成対象外）や「フィンランド発 驚異のハーモニカ・カルテット スヴェング」では、国内外で評価の高い公演を東京まで足を運ばずに県内で鑑賞できる機会を創出したことで、県内の文化水準の向上に寄与した。「東京都交響楽団名曲コンサート事前レクチャー」を実施したことで、その公演機会をより深く理解し、高い関心を持って参加するきっかけづくりとなった。</p> <p>【社会的意義】数年にわたり、新型コロナウイルスで文化芸術に触れる機会が減少していた子ども・学生に向けて、県内15校で21回実施した「グランシップ子どもアート体験！」や「グランシップ伝統芸能普及プログラム」では、音楽、伝統芸能など子ども・学生が本物の文化芸術に触れる機会を創出した。</p> <p>【経済的意義】海外との交流が減少していた中、「フィンランド発 驚異のハーモニカ・カルテット スヴェング」では、フィンランドのアーティストを静岡に招き、海外との交流機会を創出。スヴェングメンバーが愛用している静岡県にある鈴木楽器のハーモニカもミニコンサートを実施した小学校で紹介し、静岡県西部地区が「楽器のまち」として世界に誇れる地域産業のある地域であることを改めて認識する機会を創出した。「中高生のためのオーケストラ」では、県内各地の学校がバスでグランシップまで来場し、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた旅行業に好影響を与えた。</p>	

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

(目標) 普及啓発事業7事業について、入場者・参加者数の計画値の合計は4,365人とした。

(結果) 7事業すべての事業を計画通り実施し、入場者・参加者数4,197人となり、目標達成度は96.1%となった。

○「グランシップ子どもアート体験!学校プログラム」は、グランシップまで距離のある学校や小規模校を積極的に採択したが、人数の目標達成だけでなく、県内全域の子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出し、生徒のみならず多くの教員からも高評価を得て、事業実施の目的を果たすことができた。

○「グランシップ伝統芸能普及プログラム」は、大学の一部がリモート授業を継続していたこともあり、グランシップまで足を運ぶ学生が少なかったため、人数の目標は達成することができなかったが、多様な経験が制限されていた学生が安心して参加できる運用で実施した。小学校でのプログラムでは、地理的問題により舞台芸術に触れる機会の少ない伊豆地区の西伊豆町内全小学校(3校)が集まって狂言の鑑賞機会を共有するなど、効果的な取り組みとなった。

○「グランシップ静岡能 能楽入門公演」は、目標の人数を達成し、コロナ禍で実施できなかった能楽師による子どもたちへの稽古を再開し、若い世代への日本の伝統芸能を継承する一助となった。また、静岡県が舞台となった大河ドラマ「どうする家康」に合わせ、徳川家康ゆかりの演目「野守」を上演し、地域の歴史や文化に関心を高める機会にもできた。

○「グランシップ伝統芸能シリーズ講演会」は、目標値の人数にわずかに届かなかったが、会場となった静岡県立大学講堂は190人で満席となり、目標達成と同様の結果と言える。「東アジア文化都市2023 静岡県」の実施に合わせ、宝生流第二十代宗家・宝生和英氏の「シルクロードが生み出した芸能<能楽>」と題した講演会で、歴史の中で能が発展した経緯を大学生に伝え、日本の伝統文化を次世代に継承する機会となった。

○「東京都交響楽団 名曲コンサート 事前レクチャー」は、目標の人数に届かなかったが、静岡文化芸術大学名誉教授を講師に迎え、地域の文化的資源を活用する機会とした。

○「グランシップ中高生のためのオーケストラ」は、目標の人数に届かなかった。前年度まで入場料を無料としていたが、事業継続のため一部負担を学校に求める制度に変更したことが影響したと考えられる。

○「フィンランド発 驚異のハーモニカカルテット スヴェング」は、目標の人数に達することができた。グランシップではなく、県内の文化施設での出前公演を実施することにより、グランシップの活動を認知してもらう機会とし、また地域の小学校でのミニコンサートでは、海外との接触が途絶えていたコロナ禍を過ぎ、はじめて海外のアーティストと触れ合う機会となった子どもたちも多く、この取り組みによって国際交流の機会を提供した。学校では、フィンランド語で歓迎したり、演奏に合わせて自然と体を動かす生徒が多く、子どもたちにとって国や言葉の壁を越えて音楽で心が通い合うはじめての経験となった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

普及啓発事業7事業全ての事業において、計画通りに進めることができた。

○「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」では、実施校の採択から本番までの間に学校との事前打ち合わせの機会を設け、学校の実情や要望を丁寧に聞き取り、講師に伝え、内容に反映できるよう取り組んだ。また実施後には教員とアーティスト、当館職員との交流の時間を設け、実施内容、児童生徒の反応などを振り返り、3者で共有することで、それぞれに今後の対応に生かせるよう、効果的な取り組みとして実施した。

○「グランシップ静岡能 能楽入門公演」では、付随して実施した「わくわく能楽教室」の実施時期を集中させることで稽古内容の習熟度を効率的に上げることができた。

○「グランシップ伝統芸能シリーズ講演会」では、実施会場である静岡県立大学の各学部の取り組みに合わせ、多角的な視点で講演内容を理解できるよう、事前に大学と講師との情報共有に努め、国際関係学部で学ぶ学生にとっても日本の文化を知ることで視野を広げる機会を提供した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

	事業費当初予算額	実績額	達成率
支出	17,764	14,593	82.1%
収入	2,806	2,246	80.0%

普及啓発事業7事業について、合計の当初予算と実績は80～82%の執行率となり、当初の計画通りに進んだ。

○「グランシップ伝統芸能シリーズ講演会」「東京都交響楽団名曲コンサート 事前レクチャー」は出演者等の確定により、当初予算より支出を抑えることができた。

○「グランシップ静岡能 能楽入門公演」「フィンランド発 驚異のハーモニカ・カルテット スヴェング」では、チケットの販売が計画値の通りで当初予定の収入を確保した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

グランシップは県立劇場として、県内の文化芸術の取り組みを牽引する文化拠点である。2023年6月からは宮城聡新館長を迎え、文化事業における企画制作ディレクター2名と経験値の高い職員により、助成対象外事業も含め、オリジナル企画を多く制作するとともに、助成対象事業についても市町の文化施設や幅広い教育機関と連携し、県民が多彩な文化芸術に触れる機会を提供している。

○「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」、「グランシップ伝統芸能普及プログラム」

県内各地の子ども・学生が社会的環境に左右されず多彩な文化芸術に触れられる機会を創出するため、学校でのアウトリーチを実施。オーディションや複数回にわたる研修を受けたグランシップ登録アーティストによる、各学校の特性に合わせたコンサート、県内では鑑賞機会の少ない文楽、講談、浪曲、狂言はグランシップオリジナルで制作し、学校教育と連動させる取り組みを行っている。特別支援学校での実施も積極的に行い、障害の特性や人数等に合わせたより効果的なプログラムになるよう、アーティストとも協力して実施している。学校教育の中では資料や映像のみの説明になりがちな文化芸術について、本物に触れてもらう機会として継続的に実施した。また、県内の大学生向けの講座も実施し、公演とプログラムをセットで実施することで若い世代の学生がはじめて鑑賞するジャンルの手助けとした。

○「グランシップ静岡能 能楽入門公演」

静岡県とゆかりの深い能楽について、はじめての方でも理解しやすいよう、演目の途中で上演を一時停止し、能楽師自らが場面や登場人物の解説をはさみながら進行する、全国でも珍しい上演方式をオリジナルで実施。公演と付随して子ども・学生が参加できる「わくわく能楽教室」を再開し、子どもたちが仕舞や謡を体験できる機会を作り、次世代への継承にも寄与した。今回は徳川家康ゆかりの演目を上演し、大河ドラマの関心層や地域の文化的財産にも改めて気付く機会とした。助成により、入場料を1,000円に抑えることができ、鑑賞への敷居を下げた。

○「グランシップ伝統芸能シリーズ講演会」

地域の文化拠点であるグランシップが、静岡県立大学と連携し日本文化である能楽を通して、大陸文化との交流や芸能の関係性を提示する機会とした。助成により参加料無料で実施することができた。また、本事業のあとに開催された「グランシップ静岡能」（助成対象外事業）の来場への誘導に繋げ、知識から鑑賞への関心に高める機会となった。

○「東京都交響楽団 名曲コンサート 事前レクチャー」

誰もが知っているベートーヴェンの「運命」について、当時の時代背景やベートーヴェンの生涯を改めて紹介することで、「東京都交響楽団 名曲コンサート」（助成対象外事業）のオーケストラ公演の敷居の高さをなくし、音楽を多角的に関心を持てる機会とした。また静岡文化芸術大学名誉教授を講師に迎え、地域の教育機関と連携し、地域資源を活用した。

○「中高生のためのオーケストラ」

新型コロナウイルスの影響により、数年間にわたり学校生活の制限を受けてきた県内の中高生に向けて、劇場で本物のオーケストラの演奏を体験できる機会を提供できた。資料や映像ではない生の舞台を体験することで、改めて実体験の重要さや文化芸術に触れる大切さを児童生徒だけでなく教員にも感じてもらえる機会となった。一般のコンサートと同様にフロントスタッフが来場者をお迎えし、一人ひとりがチケットを持って入場するなど、本格的な劇場体験を中高生に提供した。また、学校からの移動のためのバスの費用も当館の負担で実施した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○【出前公演】「フィンランド発 驚異のハーモニカ・カルテット スヴェング」

グランシップ出前公演として県西部である磐田市で実施。県立劇場であるグランシップが出前で実施した結果、アンケートによりグランシップ企画事業をはじめて鑑賞した方が 56%、県西部からの来場者が 76.5%の結果となり、広域的な取り組み、これまでグランシップ企画事業に触れたことのない県民への波及効果をもたらすことができた。なお、「今後も同様の公演が実施されたら参加したいか」という質問には 98%がはいと回答し、県全体の文化芸術の発展、意識向上に繋げることができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【事業運営】

・静岡県文化財団中期構想、静岡県文化振興基本計画、静岡県コンベンションアーツセンター管理運営業務指定管理者計画書等に則り、適正な事業費や収入率を積算し、多彩な実施事業を決定し運営している。

・企画制作部門においては、宮城聰新館長のもと事業運営に必要な高度な専門知識と創造性を担保すると同時に、企画事業の芸術性と効率性及び採算性を両立する運営体制とするため、伝統芸能・子ども対象事業のチーフディレクター1名と音楽部門のディレクター1名を配置している。なお、チーフディレクターについては、上記業務に加えて、教育普及事業、人材育成も含めた事業全体について管理している。

【経営戦略】

・財団内に経営企画グループを配置しており、厳しい社会情勢の中でも文化事業を継続的に推進するための安定した経営基盤づくりに取り組んでいる。文化芸術への取組みと共に、経済効果においてはコンベンション機能を有するグランシップにおいて、人、もの、交流を創出することによる収入確保や高騰する光熱水費等の経費の節減に努め、スピード感のある効率的な財団経営に取り組んでいる。

【人事戦略】

・財団全体の人事戦略として、職員のモチベーションの向上や能力を発揮できる組織風土づくりを行っている。各職員が自らキャリアアップの方向性を選択・決定する職務キャリアパス制度を導入し、財団の将来を担う幹部職員の育成を図るとともに、文化事業に関しては多彩でオリジナル性の高い魅力ある事業を継続的に実施することにより、職員の経験値を高め文化事業に精通したスペシャリストを育成している。

・令和4年度から新たな人事評価制度を本格導入し、適切な目標設定と管理、フィードバックを行うことにより、職員の資質向上を図っている。

・財団内での職員研修を月例で実施し、合わせて階層別の外部研修やアートマネジメント研修等を年間を通じて計画的に実施している。

・インターンシップについて長期短期それぞれのコースで実施し、公演制作の業務体験だけでなく、貸館やその他財団の業務体験ができるようにしている。文化芸術に携わる様々な職種について次世代に向けてより広く理解を進めていく。

【ネットワーク構築】

・静岡県公立文化施設協議会の運営、財団内にあるアーツカウンスルしずおかの運営実績も活用し、県内の文化施設と連携しての事業実施、県内の各文化団体との関係も構築している。なお県内の文化施設と協力し、「静岡県高校生アトラリー」事業にも継続的に取り組み、高校生の劇場への来場を県全域で促している。また、県内の小学校～大学までの教育機関との事業実施もあり、多方面での連携を図っている。

【事業実施における PDCA サイクル】

・上記事業計画を踏まえた戦略目標と基本方針に合わせた事業を計画～実施し、事業費や入場者数の実績やアンケート結果等を踏まえ、担当内で事業終了後に反省会を実施。その後課内会議で報告し、更に財団内全課長以上の管理職が参加する会議において成功点や改善点を共有し、多方面の視点からの意見を取り入れ、次回の事業へ活かしている。

・年に一度、指定管理受託施設の設置者が行う外部評価委員会による評価を受けている。これらで得た意見等を集約し、次期事業計画へ反映し、より質の高い県民ニーズに即した事業実施へと繋げている。